



〈雑録〉商業使用人及ビ其他類似ノ地位ニ在ル勞務者 ノ雇傭契約ニ關スル千九百十年一月十日ノ奧太利國 ノ法律(本年七月一日施行)

吾孫子, 勝

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 9(4):628*-641*

(Issue Date)

1910-10

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051629>



商業使用人及ビ其他類
似ノ地位ニ在ル勞務者
ノ雇傭契約ニ關スル千
九百十年一月十日ノ奧
太利國ノ法律(本年七
月一日施行)

法學士 吾孫子 勝

第一條乃至第三條ニ掲グル者ノ雇傭關係ハ本法
ノ規定ニ從フベキモノトス

商業使用人ノ雇傭關係ニ付キテハ商法第一編第
六章ノ規定ヲ廢止シ本法ノ規定ニ從フ

商法第五十六條ハ之ヲ廢止ス

本法適用ノ範圍

第一條 本法ノ規定ハ商人ノ營業上主トシテ商人タル勞務ニ服スルガ爲メニ使用セラル、者（即チ商業使用人）又ハ商業以外ノ高等ノ勞務ニ服スル爲メ使用セラル、者ニ之ヲ適用ス

商人ニ使用セラル、モ臨時ニ商業上ノ勞務ニ使用セラル、ニ過ギザル者竝ニ主トシテ附隨ノ勞務ニ服ス者ハ之ヲ商業使用人ト認メス

第二條 右ノ外本法ノ規定ハ主トシテ商人タル勞務又ハ然ラザル高等ノ勞務ニ服センガ爲メ左ニ掲グル企業又ハ營造物ニ使用セラル、者ニモ之ヲ適用ス。企業者又ハ營造物ガ商法所定ノ商人ニ非ザルトキ亦同ジ。

一、營業條例ノ適用ヲ受クベキ各種ノ企業
二、金錢貸付所、貯蓄銀行、產業組合、養育院、公認共濟組合、私法上又ハ公法上ノ保險事業ヲ營ム營造物、竝ニ是等ノ營造物ノ

聯合體

三、定期出版物ノ編纂部、事務部又ハ販賣部
四、辯護士竝ニ公證人ノ役場

五、仲立營業人、官許ヲ得タル私營工業技師
特許辯理士、取引媒介所、興信所

六、煙草販賣局竝ニ彩票局

第三條 第一條又ハ第二條所定ノ企業ヲ帝室、公共ノ基金、縣、郡又ハ市町村ニ於テ經營スルトキハ是等ノ企業ニ於テ、商人タル勞務又ハ然ラザル高等ノ勞務ニ服スル者ハ、其雇傭關係ガ私法上ノ契約ニ本クトキニ限り本法ノ規定ニ從フベキモノトス

第四條 國ノ官吏又ハ其傭員、國有營造物又ハ國ノ監理ヲ受クル資金ニ使用セラル、者ノ勞務關係ハ本法ノ規定ノ影響ヲ受クルコト無シ

第五條 營業條例所定ノ徒弟、船舶及ビ鐵道ノ從業者、農業及ビ林業ノ從業者、竝ニ一般鑛業法ノ規定ノ適用ヲ受クベキ者ニハ本法ノ規定ヲ

適用セズ

雇傭契約ノ内容

第六條 勞務ノ種類及ビ範圍竝ニ之ニ對シテ受クベキ賃金(金錢竝ニ其他ノ物)ハ、別段ノ合意無キトキハ、當該種類ノ企業ニ付キ存在スル土地ノ慣習ニ依リ之ヲ定ム。慣習無キトキハ各場合ノ事情ニ從ヒ相當ノ勞務竝ニ相當ノ賃金ヲ給付スルコトヲ要ス

契約當事者ガ使用者竝ニ勞務者ノ組合ニ屬スルトキハ、別段ノ約束無キ限ハ此組合ノ間ニ存立スル一般契約ニ從フノ合意アリタルモノト看做ス

勞務者ニ住居竝ニ食料ヲ給與シ其料金ヲ賃金中ヨリ差引クコトハ、主務省ニ於テ、法律上當業者ノ利益ヲ代表スル權限アル團體(商業會議所、實業會議所、產業組合ノ集會等)ニ諮詢シタル後、特定ノ種類ノ企業又ハ特定ノ地域内ニ限リ之ヲ禁止スルコトヲ得

勞務者ハ雇傭契約ノ終了後、該契約ヨリ生ジタル權利及ビ義務ノ重要ナルモノニ付キ書類(雇傭證明書)ニ記入スベキコトヲ使用者ニ請求スルコトヲ得

法定ノ競業禁止

第七條 第一條第一項ニ掲グル勞務者ハ使用者ノ同意ヲ得ズシテ獨立ノ商人トシテ營業ヲ爲スコトヲ得ズ、又使用者ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ自己又ハ第三者ノ爲メニ爲スコトヲ得ズ勞務者ガ此規定ニ違反シタルトキハ使用者ハ之ニ因リテ生ジタル損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得又ハ損害賠償ニ代ヘテ勞務者ノ計算ニ於テ爲サレタル商行爲ヲ自己ノ計算ニ於テ爲サレタルモノト認ムルコトヲ得。勞務者ガ第三者ノ爲メニ爲シタル行爲ニ付キテハ使用者ハ勞務者ノ得タル報酬ノ引渡又ハ報酬請求權ノ移轉ヲ求ムルコトヲ得

前項ニ定メタル使用者ノ請求權ハ行爲ヲ知リタ

ル時ヨリ三月間之ヲ行ハザルトキハ消滅ス、行
爲ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキ亦同ジ

賃金、(甲)勞務ヲ爲ス能ハザル場合

ニ於ケル賃金請求權

第八條 勞務者ガ雇傭契約後疾病又ハ災難ニ因
リ勞務ヲ供スル能ハザル場合ニ於テ、之ニ付キ
故意又ハ重大ナル過失無カリシトキハ六週間ノ
賃金ヲ請求スルコトヲ得

勞務ヲ供スル能ハザル間公法上ノ保險ニ因リ受
クル金額ハ前項ノ金額中ニ算入スルコトヲ得ズ
右ノ外勞務者ガ一身上ノ重大ノ事由アリテ比較
的短期間勞務ヲ供スル能ハザル場合ニ於テ其責
ニ任スベカラザルトキモ賃金ヲ受クルコトヲ得
兵役義務履行ノ爲メ勞務ヲ供スル能ハザルトキ
ハ四週間其賃金ヲ受クルコトヲ得、但雇傭關係
ガ既ニ一年間斷無ク繼續シタルコトヲ要ス。
勞務者ガ現役義務履行ノ爲メ法律ノ定ムル所ニ
依リ一年間又ハ一年以上召集セラレタルトキハ

此請求權無キモノトス

第九條 前條所定ノ事由ニ因リ勞務者ガ賃金ノ
請求權ヲ失フニ至ラザル時間勞務ヲ供スル能ハ
ザルモ使用者ハ之ヲ解雇スルコトヲ得ザルモノ
トス。使用者ガ此間ニ契約ヲ解除スルモ勞務者
ハ第八條所定ノ期間内ハ賃金ノ請求權ヲ失フコ
ト無シ、雇傭關係ガ此期間ヨリモ前ニ終了スル
トキト雖モ亦同ジ

(乙)步割金

第十條 勞務者ガ自身取結ヒ又ハ媒介シタル取
引ニ付キ步割ヲ受クベキ約アル場合ニ於テ、別
段ノ合意無カリシトキハ、當該取引ニ付キ其服
務中ノ營業所所在地ニ慣行ノ步割ヲ受クベキモ
ノトス

別段ノ合意無カリシトキハ步割ノ請求權ハ販賣
行爲ニ在リテハ代金ノ支拂ヲ受ケタル後其受取
リタル金額ニ應ジテ發生シ、其他ノ取引ニ在リ
テハ其成立ト同時ニ發生ス

支拂ヲ受クベキ步割ニ關スル決算ニ付キ別段ノ
合意無カリシトキハ毎年六月末及ビ十二月末ニ
之ヲ爲スベク、又タ雇傭關係ガ曆ノ半年ヲ經過
スル前ニ解除セラレタル場合ニ於テハ契約關係
ノ終了ト同時ニ之ヲ爲スベキモノトス

勞務者ハ使用者ニ對シ帳簿ノ提出ヲ求メ又ハ自
己ノ行爲ニ依リ成立シタル取引ニ關シ帳簿ノ抄
本ノ交付ヲ求ムルコトヲ得、右ノ外他ノ法律ノ
規定ニ因リ有スル權利ヲ行フコトヲ妨ゲズ

第十一條 勞務者ハ雇傭關係ノ繼續中使用者ガ
自己ニ附託シタル顧客又ハ自己ノ媒介シタル顧
客ト使用者トノ間ニ、取引ガ勞務者ノ直接ノ干
與ヲ待タズシテ成立シタルトキト雖モ、疑ハシ
キ場合ニ於テハ步割ヲ受クルコトヲ得ベキモノ
トス

勞務者ガ明カニ或特定ノ地域ニ使用者ノ唯一ノ
代理人ニ任ゼラレタルトキハ、雇傭關係ノ繼續
中此地域内ニ於テ其直接ノ干與ヲ待タズシテ、

使用者ニ依リ又ハ使用者ノ爲メニ成立シタル取
引ニ付キテモ、疑ハシキ場合ニ於テハ又タ步割
ヲ受クルコトヲ得ベキモノトス

勞務者ニ依リ又ハ同人ノ媒介ニ依リ成立シタル
取引ガ使用者ノ行爲ノ爲メニ全部又ハ一部實行
ヲ見ルニ至ラザリシトキ、及ビ此取引ノ相手方
タル第三者ノ身上ニ重大ナル事由ノ存セシニ非
ズシテ反對給付ガ使用者ノ行爲ニ因リ全部又ハ
一部實行ヲ見ルニ至ラザリシトキハ、勞務者ハ
步割ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 使用者ガ契約ニ違反シテ勞務者ガ步
割又ハ日當ヲ約定ノ範圍ノ通り取得スルコトヲ
妨ゲタルトキハ勞務者ハ相當ノ損害賠償ヲ求ム
ルコトヲ得

第十三條 取引ヲ結ビ又ハ之ヲ媒介スル任ニ在
ル勞務者ハ取引ノ相手方タル第三者又ハ媒介ヲ
經タル第三者ヨリ、使用者ノ承諾ヲ得ズシテ步
割又ハ其他ノ報酬ヲ受クルコトヲ得ズ

(丙) 利益ノ分配ニ與カル權

第十四條 賃金ノ全部又ハ一部ヲ凡ベテノ取引又ハ特定ノ取引ヨリ生ズル利益ノ分配ニ與カルニ因リテ受クベキ旨ノ約定アリタルトキ、又ハ其他利益ノ額ニ依リ賃金ノ高ヲ定ムベキ旨ノ約定アリタルトキハ、既ニ經過シタル營業年度ニ關スル決算ハ貸借對照表ニ本キテ之ヲ爲ス勞務者ハ決算ノ當否ヲ審査スルニ付キ必要アルトキハ帳簿ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

(丁) 現在ノ給金

第十五條 勞務者ノ受クベキ現在ノ給金ノ支拂ハ遅クトモ毎月末ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

(戊) 給金ノ後拂

第十六條 勞務者ガ定期ニ給金ノ後拂ヲ受クベキトキ又ハ其他特別ノ報酬ヲ受クベキトキハ、雇傭關係ガ請求權ノ満期ト爲ル前ニ解除セラルル場合ニ於テモ之ヲ受クルコトヲ得ベキモノトス、但其金額ハ既ニ經過シタル雇傭ノ時間ニ應

ジテ之ヲ定ム

休 暇

第十七條 雇傭關係ガ既ニ六箇月間斷無ク繼續シタルトキハ勞務者ニ毎年少クトモ十日間繼續シテ休暇ヲ與フベキモノトス。雇傭關係ガ既ニ五年又ハ十五年間斷無ク繼續シタルトキハ毎年ノ休暇ハ少クトモ二週間、後ノ場合ニ於テハ少クトモ三週間トス。休暇ノ始期ハ營業ノ情況ヲ斟酌シ、勞務者ノ同意ヲ得テ豫メ之ヲ決定スルコトヲ要ス

勞務者ハ休暇ノ間其給金ヲ受クルノ權ヲ有ス三人ヨリモ少數ノ勞務者ヲ使用スル營業者ニ在リテハ休暇ハ之ヲ二回ニ、成ルベク等分シテ與フルコトヲ得

勞務者ガ疾病又ハ災難ニ因リ勞務ヲ供スル能ハザリシ時間ハ之ヲ休暇中ニ算入スルコトヲ許サズ

勞務者ガ契約ノ解除ヲ豫告シタルトキハ使用者

ハ休暇ヲ與フルノ義務無シ

監護義務

第十八條 使用者ハ勞務ノ性質ニ應ジテ、勞務者ノ生命竝ニ健康ノ保護ニ必要ナル勞務場竝ニ器械ヲ、自己ノ費用ヲ以テ設備シ且之ヲ維持スル義務アリ

使用者ガ勞務者ニ住居ヲ給スルトキハ其健康ニ有害ナル場所ヲ之ニ充ツルコトヲ得ザルモノトス

使用者ハ業務ノ種類ノ許ス限リ勞務時間中勞務場ヲ清潔ニ且塵芥無ク維持シ且冬期ハ之ヲ暖メ竝ニ勞務者ヲシテ休憩時間中ニ利用セシムルガ爲メ二十分ノ座席ヲ設クルコトニ注意スルノ義務アリ

使用者ハ勞務者ノ年齡竝ニ男女ノ別ニ應ジテ風紀ヲ維持スルニ必要ナル手段ヲ講ズルコトヲ要ス

雇傭關係ノ終了

第十九條 雇傭關係ハ約定ノ期間ノ滿了ト共ニ終了ス

試驗ノ爲メ雇傭關係ヲ約シタルトキハ試驗期間ノ最初ノ一箇月内何時ニテモ各當事者ニ於テ之ヲ解除スルコトヲ得

(甲) 解除

期限ノ定無クシテ雇傭關係ヲ約シ又ハ之ヲ繼續シタルトキハ其解除ニ付キテハ後ノ各條ニ從フ第二十條 別段ノ合意無カリシトキ又ハ使用者ノ爲メニ有利ナル地方慣習無キ場合ニ於テハ、各當事者ハ六週間前ニ豫告ヲ爲シ毎四半年ノ經過スルト共ニ解除スルコトヲ得

此豫告期間ハ特約ヲ以テ一箇月以下ニ之ヲ下スコトヲ得ズ、且常ニ毎月十五日又ハ末日ニ終ルベキモノタルヲ要ス

一時ノ必要ノ爲メニ雇傭關係ヲ約定シタルトキハ最初ノ一箇月内何時ニテモ當事者雙方ヨリ一週間前ニ豫告ヲ爲シテ之ヲ解除スルコトヲ得

豫告期間ハ常ニ當事者雙方ニ付キ同一ナルコトヲ要ス、若シ豫告期間ガ相異ナルトキハ其中ノ長キ期間ヲ當事者雙方ニ適用ス

第二十一條 當事者一方ノ終身間又ハ五年ヨリモ長キ期間雇傭ヲ約シタルトキハ勞務者ハ五年ノ經過後ハ六箇月前ニ豫告ヲ爲シテ契約ヲ解除スルコトヲ得

新ニ地位ヲ求ムルコト

第二十二條 解約ヲ豫告シタル後ハ勞務者ノ請求ニ因リ新ニ地位ヲ求ムルガ爲メニ日曜日以外ノ日ニ於テ相當ノ時間ヲ之ニ與フルコトヲ要ス但之ガ爲メ給金ヲ減額スルコトヲ許サズ
此時間ニ關スル詳細ノ規定ハ特定ノ種類又ハ特定ノ地域内ノ企業ニ付キ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

(乙)破産

第二十三條 雇傭關係ノ開始後使用者ノ財産ニ付キ破産ガ開始シタルトキハ破産財團ハ雇傭契

約ニ加入スベキモノトス。然レドモ破産開始ノ日ヨリ一箇月内ニ、勞務者ハ豫告ヲ爲スコトヲ要セズシテ又タ破産管財人ハ法定又ハ約定ノ豫告期間ノ中其短キモノヲ遵守シテ雇傭關係ヲ解除スルコトヲ得

破産管財人ガ豫告ヲ爲シタルニ因リ雇傭關係ガ約定ノ時期以前ニ解除セラル、トキ、又ハ雇傭契約ノ定ムル豫告期間ガ前項所定ノ短キ豫告期間ヨリモ長キトキハ勞務者ハ解除ニ因リ生ジタル損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得

(丙)勞務者ノ死亡

第二十四條 雇傭契約ニ本キ使用者ヨリ住居ヲ給シタル勞務者ガ死亡シタル場合ニ於テ、勞務者ガ自身家計ヲ立テ居リタルトキハ其死亡後一箇月内ニ、然ラザルトキハ十日内ニ住居ヲ明渡スベキモノトス

然レドモ後任者竝ニ其所有ノ造作類ヲ入ル、ガ爲メニ必要アルトキハ使用者ハ即時ニ住居ノ明

渡ヲ求ムルコトヲ得

(丁)滿期前ノ解約

第二十五條 重大ナル事由アルトキハ各當事者ハ雇傭關係ニ付キ契約ニ期間ノ定アルモ其滿了前ニ、其定無キ場合ニ於テハ豫告期間ヲ遵守スルコトヲ要セズ之ヲ解除スルコトヲ得

第二十六條 殊ニ左ノ場合ニ於テハ勞務者ヨリ約定ノ期間滿了前ニ契約ヲ解除シ得ベキ重大ナル事由アリト認ムベキモノトス

一、勞務者ガ勞務ヲ繼續スル能力ヲ失ヒタルトキ、又ハ勞務ヲ繼續スルトキハ健康若クハ風紀上ニ損害ヲ受クベキトキ

二、使用者ガ勞務者ノ受クベキ賃金ヲ不當ニ減額シ若クハ拂渡ヲ留保シタルトキ、金錢以外ノ物ヲ給與スベキ場合ニ於テ健康ニ有害ナルカ若クハ不充分ニ食料ヲ與ヘ又ハ健康ニ有害ナル住居ヲ與ヘテ勞務者ニ損害ヲ被ムラシメタルカ又ハ其他重要ナル約款ニ

背キタルトキ

三、勞務者ノ生命、健康又ハ風紀ヲ保護スベキ法律上ノ義務(第十八條)ヲ履行スルコトヲ使用者ガ拒ミタルトキ

四、使用者ガ勞務者又ハ其家族ニ對シ暴行ヲ加ヘ又ハ風紀ニ違背シ若クハ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ、又ハ他ノ使用人若クハ使用者ノ家族ヨリ勞務者又ハ其家族ニ對シテ前掲ノ行爲スルニ方リテ之ガ保護ヲ拒ミタルトキ

第二十七條 殊ニ左ノ場合ニ於テハ使用者ガ約定ノ期間滿了前ニ契約ヲ解除シ得ベキ重大ナル事由アリト認ムベキモノトス

一、勞務者ガ其職務ニ忠實ナラザルトキ、其執務中使用ニ於テ知ラズ又ハ欲セザルニ拘ハラズ第三者ヨリ不當ノ利益ヲ受ケ殊ニ第十三條ノ規定ニ違背シテ步割又ハ其他ノ報酬ヲ受ケタルトキ、又ハ使用者ノ信任ニ背

クモノト認ムベキ行爲アリタルトキ

二、勞務者ガ約定ノ勞務又ハ各場合ノ事情ニ依リ相當ト認ムベキ勞務(第六條)ヲ供スル能力ヲ失ヒタルトキ

三、第一條第一項ニ掲グル勞務者ガ使用者ノ承諾ヲ得ズシテ獨立シテ商業ヲ營ミ又ハ使用者ノ營業上自己又ハ第三者ノ計算ニ於テ商取引ヲ爲シタルトキ

四、勞務者ガ勞務ヲ供スル能ハザル正當ノ事由アルニ非ズシテ著シキ時間勞務ヲ供セザルトキ、又ハ勞務ニ應ズルコトヲ拒ミ若クハ勞務ノ目的タル事項ニ相應スル使用者ノ正當ノ命令ニ從フコトヲ拒ミタルトキ、又ハ他ノ使用人ヲ誘ヒテ使用者ニ對シテ從順ナラシメタルトキ

五、勞務者ガ疾病又ハ災難ニ因リ六週間以上勞務ヲ供スル能ハザルトキ、又ハ長期ノ自由刑ニ處セラレ若クハ不在ノ爲メ著シキ時

間勞務ヲ供スル能ハザルトキ、又ハ法定演習期間ヲ超ユル時間軍務ノ爲メニ召集セラレタルニ因リ勞務ヲ供スル能ハザルトキ

六、勞務者ガ使用者又ハ其代理人、其家族若クハ朋輩タル使用人ニ對シ暴行ヲ加ヘ、風紀ニ違背シ又ハ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ

第二十八條 勞務者ガ重大ナル事由アルニ非ズシテ約定ノ期間滿了前ニ契約ヲ解除スルトキ、又ハ過失アリテ期間滿了前ニ解雇セラレタルトキハ使用者ハ之ニ因リテ生ジタル損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得

既ニ供シタル勞務ノ賃金ガ未ダ期限ニ至ラザルトキハ勞務者ハ約定期間滿了前ノ解除ニ因リ使用者ニ其賃金ノ全部又ハ大部分ガ歸屬スルニ至ラザルトキニ限り之ヲ受取ルコトヲ得

第二十九條 使用者ガ重大ナル事由アルニ非ズシテ勞務者ヲ約定期間滿了前ニ解雇スルトキ、

又ハ期間滿了前ノ解雇ニ付キ使用者ガ其責ニ任ズベキトキハ、勞務者ハ損害ノ賠償ヲ求メ得ベキハ勿論、其既ニ供シタル勞務ニ相當スル賃金ノ外尙ホ約定ノ雇傭期間ノ終了ニ至ルマデノ時間又ハ正當ノ豫告期間ニ相當スル時間ニ對スル約定ノ賃金ヲ請求スルコトヲ得

凡ベテ賃金ハ雇傭關係ノ解除ト同時ニ期限ニ至ルモノトス

第三十條 勞務者ガ必ズ確定ノ日ニ勞務ニ就クベキ旨ヲ明カニ條件トシタル場合ニ於テ勞務者ガ此特定ノ日ニ勞務ニ就カザルトキハ使用者ハ其原因ノ如何ヲ問ハズ契約ヲ解除スルコトヲ得此他使用者ハ勞務者ガ避クベカラザル障碍アリタルニ非ズシテ十四日以上執務ヲ延引シタルトキハ其就任前契約ヲ解除スルコトヲ得、使用者ガ勞務者ヲ期間滿了前ニ解雇シ得ベキ正當ノ事由アルトキ亦同ジ

勞務者ハ期間滿了前ニ雇傭關係ヨリ脫退スルコ

トヲ得ベキ正當ノ事由アルトキハ其就任前契約ヲ解除スルコトヲ得、使用者ノ過失ニ因リ又ハ使用者ノ責ニ歸スベキ不可抗力ニ因リ十四日以上就任ガ延引シタルトキ亦同ジ。勞務者ガ此場合ニ於テ延引ニ拘ハラズ勞務ニ就キタルトキハ勞務ニ就クコトヲ得ベカリシ日ヨリノ賃金ヲ請求スルコトヲ得

就任前使用者ノ財産ニ付キ破產手續ガ開始セラレタルトキハ破產管財人竝ニ勞務者ハ契約ヲ解除スルコトヲ得

第三十一條 使用者ガ重大ナル事由アルニ非ズシテ契約ヲ解除シタルトキ又ハ過失ニ因リ勞務者ニ契約ヲ解除スルノ原因ヲ與ヘタルトキハ、勞務者ノ就任ノ日ニ正當ニ解除セバ之ニ因リ雇傭關係ガ終了スルマデニ經過シタリシナラント認ムベキ時間ニ相應スル賃金ヲ之ニ賠償スベキモノトス。雇傭契約ニ付キ期間ノ約定アリタルトキハ其期間ガ三月ヲ超エザルトキハ其期間ノ

全部ニ相當スル賃金ヲ、又タ約三ノ雇傭期間ガ三月ヲ超ユルトキハ三月分ノ賃金ヲ使用者ヨリ勞務者ニ賠償スベキモノトス。前項ノ規定ハ其他勞務者ニ損害アリタル場合ニ於テ之ガ賠償ヲ求ムルコトヲ妨ゲズ

破産管財人が契約ヲ解除シタルトキハ勞務者ハ前項ト同一ノ請求ヲ爲スコトヲ得

勞務者ガ重大ナル事由アルニ非ズシテ契約ヲ解除シタルトキ又ハ過失ニ因リ契約ヲ解除スルノ原因ヲ使用者ニ與ヘタルトキハ使用者ハ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得

當事者雙方ニ責任アル場合

第三十二條 雇傭契約ノ解除ニ付キ又ハ雇傭關係ガ約定ノ期間満了前ニ終了スルコトニ付キ當事者雙方ニ責任アルトキハ判事ハ賠償ヲ命スヘキヤ否ヤ及ビ其程度ノ如何ヲ自由ナル心證ヲ以テ決定スベキモノトス

破産ノ場合ニ於ケル賠償請求權ノ順位

第三十三條 勞務者ガ第二十三條第二十九條第三十一條ニ依リ行使スルコトヲ得ベキ債權ガ同人ノ一年間ニ受クベキ賃金ノ額ヲ超エザル限ハ破産債權中ノ第一順位ニ屬スベキモノトス（破産法第四十三條第二項）

損害賠償請求權行使ノ期間

第三十四條 約定期間満了前ノ解除又ハ第二十八條第二十九條ノ所定ノ満了前ノ解雇ニ本ク損害賠償ノ請求權ハ六月内ニ裁判上之ヲ行使スルコトヲ要シ然ラザレバ其權利ヲ失フ

此期間ハ前項中最初ニ掲ゲタル種類ノ請求ニ在リテハ解除若クハ解雇アリタル翌日ヨリ、後ニ掲ゲタル種類ノ請求ニ在リテハ勞務ニ就クコトヲ得ベカリシ日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

擔保

第三十五條 勞務者ガ擔保ヲ供シタル場合ニ於テ之ニ對シ雇傭關係ノ終了ノ際使用者ヨリ損害賠償ノ請求ノ提起アルトキハ勞務者ハ其擔保ヲ

裁判所ニ引渡スベキ旨ヲ請求スルコトヲ得

競業禁止ノ約款

第三十六條 勞務者ガ雇傭關係ノ終了後ニ於テ營業行為ニ制限ヲ受クベキ旨ノ約定(即チ競業禁止ノ約款)ハ、約定ノ當時勞務者ガ未成年者ナリシトキ又ハ雇傭關係終了當時ノ賃金ノ年額ガ四千「クローネ」ヲ超エザリシトキハ無効トス此以上ノ賃金ト雖モ此種ノ約定ハ左ノ要件ヲ具備スルトキニ限り有效トス

一、制限セラレタル行為ガ使用者ノ營業ノ部類ニ關シ且一年ヲ超エザルトキ

二、竝ニ其制限ガ目的事項、時間又ハ場所ノ點ニ於テ勞務者ノ生計ニ不當ノ困難ヲ來サザルトキ及ビ此制限ニ因リテ使用者ノ受クル營業上ノ利益ガ勞務者ノ受クル不利益ト權衡ヲ失ハザルトキ

第三十七條 使用者ノ過失ニ因リ勞務者ガ期間満了前ニ契約ヨリ脫退シ又ハ契約ヲ解除シ得ベ

キ正當ノ原因ヲ與ヘタルトキハ使用者ハ競業禁止ノ約款ニ因リテ得タル權利ヲ勞務者ニ對シテ行使スルコトヲ得ザルモノトス

使用者ガ雇傭關係ヲ解除スルトキ亦同ジ、但勞務者ガ過失ニ因リ其原因ヲ與ヘタルトキ又ハ使用者ガ雇傭關係ヲ解除スルニ方リ競業禁止ノ制限アル間勞務者ニ同人ガ最後ニ受ケタル賃金ヲ支拂フベキ旨ヲ約シタルトキハ此限ニ在ラズ勞務者ガ競業禁止ノ約款ニ違背スル場合ニ違約金ヲ支拂フベキ旨ヲ約シタルトキハ使用者ハ勞務者違約ノ場合ニ於テハ其違約金ノミヲ請求スルコトヲ得、此他契約ノ履行ヲ求メ其他損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ザルモノトス

違約金

第三十八條 判事ハ違約金ヲ輕減スルノ權アルモノトス

證明書

第三十九條 使用者ハ雇傭關係ノ終了ニ際シ勞

務者ノ請求ニ依リ、之ニ勞務ヲ供シタル時間竝ニ勞務ノ種類ニ關スル證明書ヲ交付スルノ義務アルモノトス。勞務者ガ新ニ地位ヲ得ルコトヲ困難ナラシムベキ記載、附記ヲ爲ス事ヲ許サズ勞務者ガ雇傭關係ノ繼續ニ證明書ヲ求メタルトキハ同人ニ費用ヲ負擔セシメテ之ヲ交付スベキモノトス

使用者ノ保管ニ係ル勞務者所有ノ證明書ハ勞務者ノ請求アルトキハ何時ニテモ之ニ引渡スベキモノトス

強行規定

第四十條 第八條(但其末段ヲ除ク)第九條、第十條末段、第十二條、第十四條第二項、第十五條、第十六條、第十七條第一項乃至第四項、第十八條、第十九條第二項、第二十條第二項乃至第四項、第二十一條乃至第二十四條、第二十九條、第三十條第二項乃至第四項、第三十一條第一項第二項、第三十四條、第三十五條、第三十七條乃至

至第三十九條ニ依リ勞務者ノ有スル權利ハ雇傭契約ニ依リ之ヲ奪ヒ又ハ制限スルコトヲ許サズ

營業裁判所ノ管轄

第四十一條 本法ニ定ムル雇傭關係ヨリ生ズル訴訟ハ使用者ノ企業ガ營業條例ノ適用ヲ受クルトキニ限り營業裁判所ノ管轄ニ屬ス

他ノ諸法律トノ關係

第四十二條 本法ニ特別ノ規定無キ限ハ雇傭竝ニ有給契約ニ關スル民法ノ規定ハ本法所定ノ雇傭關係ニ之ヲ適用ス

本法ニ特別ノ規定無キ限ハ營業條例ノ規定ハ第七十二條、第七十七條、第八十條乃至第八十條ノ九、第八十一條、第八十四條、第八十五條ヲ除ク外、本法所定ノ雇傭關係ニシテ營業條例ノ適用ヲ受クベキモノニ之ヲ適用ス (畢)

(注意)此法律ニ付キテハ本年刊行ノ獨逸商法雜誌第六十六卷第四冊中ニ維也納大學講師オスカ、ピスコ氏ノ詳細ナル説明アリ